

就労している発達障害者への生活支援の検討 — 6名の発達障害者へのインタビューから—

“An Examination of Life Support for People with Developmental Disabilities at Work: Interviews of Six People with Developmental Disabilities”

平野 啓介
Keisuke HIRANO

旭川大学短期大学部

Synopsis:

This article is a report of the current situations of six people with developmental disabilities. Semi-structured interviews on their employment and working environment were conducted, recorded, and then analyzed, based on quotative research methods.

I have concluded that they are able to work with the support from their workplace. They spend their income as they like and enjoy life doing their hobbies. They work hard for their spiritual well-being and in order to buy things they want for their personal life.

However, I saw a gap between the work they are currently doing and the work they wanted to do. Also, they tend to keep company with the people they know, which tends to be the users and support staff in their group home.

In this interview, I focused on the achievements in employment, working environment and spiritual welfare of the people with developmental disabilities and I reconfirm the significance of livelihood support for those people.

梗概

本稿では障害者雇用枠で就労している発達障害者6名について、就労および生活に関する半構造化インタビューを行い、言語データを収集し質的研究法に基づき分析を行った。

結果として、就労先の支援を受けつつ担当業務に勤しんでいること。得た収入で自らの趣味活動を楽しんでいること。将来得たい物品、精神的満足感のために努力していることが把握できた。

他方で、現在就いている業務と就きたかった業務との乖離。仲の良い人は、共同生活援助（グループホーム）内の利用者と支援職員に限定されている現状も浮かび上がった。

1. 目的と背景

本稿では、就労している発達障害者への生活支援の実践を検討することが目的である。筆者は、ゼミナール授業で、発達障害を持つ方（以下 発達障害者）への生活支援および就労支援に関する授業を担当している。

ゼミナールに所属している学生は、介護福祉士国家資格取得を目指している。介護福祉士とは、社会福祉士および介護福祉士法第2条の定義¹⁾の通り、日常生活を営むうえでの障害を理解し、心身の状況に応じた介護を実践する専門職である。介護の実践は、福祉サービス利用者

(以下 利用者)の生活状態、心身機能、生活史、習慣・文化・価値観等の情報収集から始まる。利用者の情報は健康状態、生活機能、背景因子の各要素²⁾に分類し、その相互関係から生活ニーズを明確にし、直接的かつ具体的な生活支援技術を活用して、身体的側面・精神心理的側面・社会的側面へ支援する³⁾。

学生は在学中、高齢や多様な障害を持つ利用者への生活支援を学ぶこととなる。ゼミナール活動の対象者である発達障害者は、発達障害者支援法の施行により社会的な認知は進んでいるものの、他方では日常生活や職場内でのコミュニケーションの困難を抱えている方に「場の雰囲気を読めない人」とレッテル貼りをしたり、こうした傾向がある方へ「発達障害」の用語を濫用したりする風潮もある。どちらにしても、発達障害に対する適切な理解が自明である。

では、生活支援を検討するにあたり、どこへ着眼すればよいだろうか。とりわけ発達障害者は、身体的側面よりかは精神心理的側面・社会的側面への支援が多い傾向^{4) 5)}にある。望月ら(2011)⁶⁾、高岡(2012)⁷⁾、内木場ら(2015)⁸⁾、熊谷(2016)^{9) 10)}の先行研究においても、発達障害特性の理解と社会環境との相互作用をとらえた就労・生活支援について数多くの報告がなされている。そのうネストレングス(strength)¹¹⁾視点といった利用者のポジティブな側面をとらえた支援のあり方が重要とされる。

ゼミナール活動で、学生はボランティアとしてS福祉サービス事業所(以下 S事業所)の行事に参加した。そこで発達障害者と関わる経験を幾度も得た。行事に参加した発達障害者は、普段就労しており、休日開催する事業所主催の行事に参加。自ら楽しむことは勿論のこと、時には事業所運営の手伝いも行っており、学生はそのなかでコミュニケーションする機会を得た。

ボランティア活動の総括で、学生から「[参加していた発達障害者は]どこに障害があるのだろうか。言語コミュニケーションに支障もなく、身体的介護の必要性は感じられない」、「働いて給料を得ることで、好きなものが買えた

り、趣味も楽しんだりすることができるのが理解できた」、「働いている会社では、どのような支援をうけているのだろう」「もし支援が必要であっても、見守りや助言で良いのではないか」、「お話を傾聴し、どのようなことに困っているのか理解することが大切」、「課題とかできない部分ばかり見ようとしていたが、得意な部分を伸ばしていけるような支援ができないだろうか」と様々な感想が挙がった。そればかりか、発達障害者への関心が高まり「自分にはどのような支援ができるのだろうか」といった探究心を抱くようになってきたのである。

こうした学生の探究心に応えつつ、発達障害者へのさらなる理解と生活支援について検討する好機と考えた。

そこで、介護福祉士養成課程で想定される教育に含むべき事項¹²⁾および筆者の発達障害者への調査経験^{13) 14)}も踏まえつつ、本稿では就労している発達障害者への生活支援の検討を行う。

II. 研究方法

1. 対象者

Z市内において障害者雇用枠で就労している発達障害者6名(A氏、B氏、C氏、D氏、E氏、F氏)。

2. 用語の定義

(1) 就労

- ①本稿では「企業と労働契約を締結し、当該業務を遂行することで賃金を得ている」状況とした。
- ②昨今の厳しい障害者雇用情勢も鑑み、一般雇用または障害者雇用の別、正規就労、非正規就労の別は問わないこととした。

(2) 発達障害者

- ①本稿では、発達障害者支援法第2条第1項¹⁵⁾に該当する方を対象とした。
- ②本調査に至る手続きとして、発達障害者への支援実績があるS障害福祉サービス事業所へ本調査の趣旨説明を行い、6名の紹介を受けることとなった。

3. 調査日時・調査方法

(1) 調査日時

- ① 2019年11月30日に3名（A氏、B氏、C氏）、同年12月3日に3名（D氏、E氏、F氏）実施した。対象者の都合を事前確認し、調査日を決定した。
- ② 時間は両日とも就労が終わった18時頃より開始し、所要時間は70分程度であった。

(2) 調査方法

- ① 半構造化面接によるグループインタビューを実施した。質問内容をある程度決めつつ、それを起点として自由に語ることができる余地を残した方法が、回答の促進には有益と考えたためである。
- ② 対象者の性別、年齢、診断名、雇用形態について、6名の生活支援にあたる福祉サービス事業所より、情報提供を受けた。またインタビューのなかでも確認した。
- ③ インタビューガイド内容（生活で楽しいこと、趣味、自分の自慢は何か、これまでの生活で仲の良い方は誰か、周囲から助けられていることは何か、お仕事でいくら給料をもらっているか、一番ほしいものは何か、今の仕事はやりたい仕事か、今の仕事で不便な点は何か）を説明した上で、感じていることを自由に語ってもらう形式をとった。
- ④ インタビューでは、ゼミナール所属学生5名（第2学年2名、第1学年3名）も、対象者の事前同意を得て参加した。

4. 倫理的配慮

旭川大学短期大学部研究倫理委員会（旭川大学短期大学部における人間と対象とする研究審査申請）の承認を得て実施した。

対象者へ、依頼文書および口頭で、研究目的、意義、方法を説明した。インタビュー内容について、個人の特定がされることはないこと。インタビューの際、音声データとしてICレコーダーへの録音可否およびその内容を文字テキストデータとして作成すること。本調査への回答は任意であり、インタビューの中断およびそれに対する不利益は、本人、関係者含め一切生じないこと。インタビューデータの取り扱いおよび調査研究結果について論文発表や学会報告で活用されることを説明し、承諾を得た。

インタビュー場所は、対象者が利用者している福祉サービス事業所内にあるプライバシー確保ができる部屋で実施した。

Ⅲ. 分析方法

質的研究法を用いた。対象者の視点を理解したく、この方法が適していると考えたためである。対象集団の代表性という課題への指摘もあるが、対象者の声を直接聴くことを出発点にしたかったためである。分析方法については、桜井厚・小林多寿子¹⁶⁾、佐藤郁哉¹⁷⁾を参考にした。

インタビュー対象者の語りを文字テキストデータにした。対象者の言葉および文脈の内容が変わらないよう配慮しつつ、後述Ⅳ. 結果に示した。

IV. 結果

1. 基本属性

表1の通り示した。6名の対象者（A氏、B氏、C氏、D氏、E氏）は高等養護学校（特別支援学校）を卒業している。現在は、障害者雇

用枠で就労（E氏のみインタビュー調査前に退職し、現在求職中）している。居住場所は、共同生活援助（グループホーム）または自立訓練宿泊型を利用している。6名ともに広汎性発達障害の診断を受けている。

表1 対象者の基本属性

対象者	性別 年齢 ¹⁾	インタビュー 実施日	居住	診断 ²⁾	就労している 業種 ³⁾	雇用形態 ¹⁾²⁾⁵⁾	月給（総支給）・障害基礎 年金 ⁵⁾
A	女性 24	2019.11.30	共同生活援助 (グループホーム)	広汎性 発達障害	製造業	障害者雇用 パートタイム	月給 120,000円 年金 だいたい60,000円
B	男性 33	2019.11.30	共同生活援助 (グループホーム)	広汎性 発達障害	生活関連 サービス業	障害者雇用 パートタイム	月給 150,000円 年金 だいたい60,000円
C	男性 28	2019.11.30	共同生活援助 (グループホーム)	広汎性 発達障害	生活関連 サービス業	障害者雇用 パートタイム	月給 110,000円 年金 だいたい60,000円
D	男性 33	2019.12.03	共同生活援助 (グループホーム)	広汎性 発達障害	小売業	障害者雇用 正職員	月給 120,000円半ば 年金 だいたい60,000円
E	男性 20	2019.12.03	自立訓練 宿泊型	広汎性 発達障害	小売業	障害者雇用 パートタイム	月給 110,000～120,000円 年金 申請したが「不支給」
F	男性 20	2019.12.03	自立訓練 宿泊型	広汎性 発達障害	元小売業 ⁴⁾	—	月給 高くて110,000円 年金 申請し結果待ち

1) 年齢はインタビュー当時のものである。

2) 対象者について6名が利用している福祉サービス事業所から情報提供を受けた。

3) 総務省 日本標準産業分類（平成25年10月改定）（平成26年4月1日施行）分類項目名、説明及び内容例示を用いた。

4) F氏についてはインタビュー日現在の1ヶ月前まで小売業で就労していたが、現在無職とのことで「元小売業」と記載した。

5) 雇用形態、月給、障害者基礎年金については、対象者の回答のまま記載した。

2. インタビュー対象者の語りから

インタビューガイドに沿って、対象者が語ってくれた内容を下記項目および表に整理した。このインタビューに協力してくれた対象者のうち、A氏は2016年に、D氏は2016年および2018年に筆者の調査研究に協力してくれた方であった。

表にある「」書きかつ斜体文字は発達障害者の語りをそのまま記載した。「」内にある〔〕は、その語りを補足するものとして筆者が加えたものである。語りの中の・(中黒)は文書データの一部あるいは前後部分の省略を示すものである。

(1) 就労に関すること(表2)

インタビューガイド「お仕事でいくら位の給料をもらっていますか」「今の仕事はやりたい仕事ですか」「お仕事をされていて不便な点はなんで

すか」への回答とその回答内容の連続性を考慮し、「就労に関すること」として整理した。

給料は110,000円～150,000円という回答であった。それに障害基礎年金を加えて毎月生活している。金額(約60,000円)から、障害基礎年金2級と想定される。お仕事していて不便な点はないという回答が聞かれるも、一定の就労年数が経過していたことから、就労当初の様子を質問したところ、業務理解に関する回答(A氏、B氏、C氏、D氏)があった。また休暇に関する回答(E氏、F氏)もあった。今の就労先で不便なことはなく、就労先の支援を受けつつ担当業務に勤しんでいる回答であった。

他方で、現在就いている業務と就きたかった業務との乖離を伺わせるような発言(A氏、D氏、E氏、F氏)も聞かれた。

就労している発達障害者への生活支援の検討
 - 6名の発達障害者へのインタビューから -

表2 就労に関すること

対象者	内 容
A	[お給料は] だいたい月12万円です。パートです…あと年金です。だいたい… [あわせて] 月20万です。 [お金の遣い方は] サポート受けながら…月のお小遣い制です。 [お小遣いは] 月2万円と携帯代は別です。 サポートの人と相談して決めてます。 [今のお仕事は] やりたい仕事です。 [他にやりたい仕事はありますか] 食べ物作るのが好きなので、本当は調理関係の仕事がしたいです。 [お仕事で不便なことは] 特にはないです。今、ビニルハウスの力仕事ですけど…。農家さんに納めるビニル加工を。ここで7年目です。会社の中で年齢は若いほうです。 [最初はどんなことが大変でしたか] 全体的に力仕事なので、それに慣れるが大変でした。ビニルは結構重たい。紙筒にまかれて180キロくらいあって…それをお客さんにあわせて切って加工するから…。
B	[お給料は] 月15万円くらいかな…あと年金です…パートです。 [時間給計算かは] わからない…。 [今のお仕事は] そうです。やりたい仕事です。 [他にやりたい仕事はありますか] [沈黙30秒ほど] やりたい仕事…。力仕事が好き。今の仕事が。 [お仕事で不便なことは] あっ、ないです。今、クリーニングの洗い場です。〇〇(クリーニング会社名)です。おもに力仕事です。働いて…5年目です。 [今就労している] 〇〇の前は、△△クリーニングです。前 [△△クリーニングのこと] と同じ仕事だったので、今も同じように… [最初はどんなことが大変でしたか] シーツとか捌くのが大変でした。シーツはシーツ。ドロドロで。洗い場の方です。
C	[お給料は] 月11万円くらい。あと年金です。パートです。時間給は…わかりません…。 [今のお仕事は] やりたい仕事です。 [他にやりたい仕事はありますか] [沈黙30秒ほど] …力仕事。 [お仕事で不便なことは] 特にはないです。内容を覚えるのは大変です。クリーニングの洗い場で温度とか仕上げとか。 [Bさんと同じ職場の] 〇〇(クリーニング会社名)です。 病院関係のシーツ関係の洗って仕上げる仕事です。 [Bさんと同じで] 〇〇クリーニングの前は、△△クリーニングです。加工5年目です。夏とお盆とお正月が忙しい…お正月は3日からお仕事です。 [最初はどんなことが大変でしたか] お仕事の内容を覚えるのが大変でした。 [例えば] 温度の調整…乾いたかどうか。衣類によって変えなくちゃいけない…今注意していることは、シミがついていないか確認しながら。洗っててもシミが残ることあるんです。仕上げの方です。
D	[お給料は] 月12万のなかばです…正社員として。障害基礎年金2級です。 [今のお仕事は] 今のガソリンスタンドとか、資格あるような仕事は正直就きたくなかったんです…でも [ウィンタースポーツ] 〇〇部があったので入ったんです。 [ウィンタースポーツ] 〇〇ができるから、今のままでもいいかな…。 [お仕事で不便なことは] 新しい仕事なので、危険物の勉強をしないといけない。危険物の資格を取る勉強が大変です。仕事は石油販売会社1年目です。その前はクリーニング店でした。ガソリンスタンド店に所属しています。今は1年目。夏から秋は販売部に。冬はガソリンスタンドに配属になります。その前は〇〇(クリーニング)で1年と9ヶ月…。
E	[お給料は] 水産加工の会社で働いて2年目です。シフト制で月ごとによって違うんですけど、月11～12万円です。パートタイマーです。時間給です。スーパーの水産部門で働かせてもらっています。ちょうどこの場所をでて近くにあるところです。魚です。 [年数は] そうですね…今年2年目ですね。 障害者年金は申請したんですけど、 [申請が] 通らなくてももらえていないんですけど、また来年申請する予定です。都道府県で一括して審査するようになっただけで、結構厳しくなっていますね。 [今のお仕事は] 自分から選んで入った職場ではないんですけど、やりたい仕事といえばそうではないんですけど…でも順調に進んでいるのは、やりたくはなかったんですけど、この仕事でもいいかな。 [やりたい仕事としては] 身体動かさない仕事がいい…。一時期は教員も考えていたのですが、時間がなくて諦めました。 [お仕事で不便なことは] スーパーですので、業務シフトが他の友だちと基本的に合わない。土日は基本出勤です…連休、大型連休、クリスマスとかも出勤なのでそこは不便ですね。
F	[どのようなお仕事を] 今年の10月まで、ホームセンターで働いていたんですけど、ちょっと諸事情で辞めてしまって…今は無職です。今は探しています。 [前の職場のお給料は] 一番高くて月11万円くらいでした。シフト制でした。障害者年金は申請しましたが、まだ結果は出ていないですね。 [今のお仕事は] 僕の母親がスーパーの仕事をしていたんですけど、その母親の仕事がかっこよくて僕もやりたいと思って。スーパーのレジを希望していたんですけど、別の部署になっちゃんですけど…。 [他にやりたい仕事はありますか] 清掃業につきたいと思ってます。 [お仕事で不便なことは] 僕もスーパーだったので、長期休みがないので不便だったなと思いました。今は仕事していないんですけど…。

(2) 就労以外の日常生活のこと (表3)

インタビューガイド「生活で楽しいことはなんですか」「趣味はなんですか」「自分の自慢はなんですか」「一番ほしいものはなんですか」への回答とその回答内容の連続性を考慮し、「就労以外の日常生活のこと」として整理した。ここでは、趣味のほか、対象者の出身高校（特別支援学校、高等養護学校）の話題へと拡がった。

回答では、就労で得た収入で自らの趣味活動を楽しんでいることが伺えた。6名それぞれの

楽しみと趣味や自慢、特技の回答が聞かれた。スマートフォンでアプリをダウンロードしゲームする（A氏、B氏、E氏、F氏）、身体を動かす（C氏、D氏）、歌手・芸能活動の視聴（A氏、B氏、C氏）、幼少の頃から続けている活動の継続（E氏）など個別性が回答に表れた。一番欲しいものは趣味や自慢、特技に関連するもので、将来得たい物品・精神的満足感のためにお金を稼ぐ努力をしているという回答であった。

表3 就労以外の日常生活のこと

対象者	内 容
A	[生活で楽しいことは] 仕事にもいけて、生活もちゃんとできて、それが一番楽しいです…怪我なく…。 [趣味は] 嵐のDVDをみることです。[コンサートは行きましたか] コンサート行きました。昨年Y市に…2年前も。[誰が好きですか?] ○○君が好きです。かっこいい。 [自分の自慢できることは] 「つむつむ」が強くなって。職員に負けたことない。2、300は [レベルのこと] ってる。[何のゲームですか] スマホです。LINEです。スマホはアイフォンです。アプリは結構とったり [ダウンロード] します。 [今一番欲しいものは] … [5秒ほど沈黙] 嵐のDVDです。だいたい5,000円～6,000円します。ライブのDVDです。
B	[生活で楽しいことは] 一番楽しいことは、どっか行くことですね。自転車で、どっか行くことですね。 [趣味は] 三代目ジェイソウルブラザーズです。あとプロ野球です。[好きな人はいますか] 今市君です。歌うまいし。野球はファイターズのファンです。○○選手が好きです。 [自分の自慢できることは] 芸能人を探ことです。ネットで…スマホです…パソコンじゃなく。○○○とかを探して見えます。 [今一番欲しいものは] 一番ほしいのはTシャツです。ライブTシャツです。三代目ジェイソウルブラザーズのTシャツです。
C	[生活で楽しいことは] 皆と、○○○（アミューズメント施設）に行くことです。[そこで好きなのは] バッティングです。[うまいんですか] そこそこです。夏は自転車、冬は電車…。 [趣味は] 乃木坂のCDを聴くことです。好きな人は○○です。 [自分の自慢できることは] [しばらく考えて] 野球が得意です。[野球観戦はしますか] たまに見にいきます。○○球場に見にいきます。今年行ってないです。アプリは結構とったりします。 [今一番欲しいものは] 今年ロードバイク買って…そのパーツ [部品] です。 [ロードバイクはおいくら] 10万円くらい。ハンドルがレース用になってて…レースは出ないですが通勤で…パーツも結構 [値段が] すると思います。
D	[生活で楽しいことは] 楽しいこと…楽しいことっていったら、特に考えたことない…。 [趣味は] 体鍛えることしかないっすね…もう走りに行ったり、それぐらいしかないですよ。週6日くらい。練習が。クロスカントリーです。 [ウィンタースポーツの] ○○チームに所属しているので、その練習をすることです。 [自分の自慢できることは] 今の会社に入った理由として、日本障害者○○[ウィンタースポーツの団体の] ○○部が立ち上がる予定となって、本格的にこのチームに入ったのが転職理由です。転職したのは5月X日で、普通に練習するのですが、合宿するとなったらチームで合宿します。9月から、8時から14時までの勤務で、14時からはスポーツの練習という労働時間になっています。今、パラリンピックに向けて、10年後なんですけど。一応復活に向けて… [今一番欲しいものは] 昔は服とか買っていたんですけど…今はランニングシューズほしいですね。今は自分の足型にあったインソールがほしいです。スポーツをするなかで、自分の足の力加減の伝わり方もわかるんですよ。オーダーメイドなら、インソールだけで15,000円くらいするんですよ。ランニングシューズが良くて買ったけど、合わなかったら膝に負担とかかかっているんで。スポーツ系の靴が欲しいです。

就労している発達障害者への生活支援の検討
 - 6名の発達障害者へのインタビューから -

E	<p>[生活で楽しいことは] そうですね…ここは共同生活の場なので、自分と同じような生活をする方が普通にいるので、そこで仲の良い人と話すのが、いまのところ一番の楽しみです。</p> <p>[趣味は] 基本的にはゲームがメインになりますけれども、あとは小さい頃から続けてきたピアノを弾くことですかね。スマホゲームはもちろんですけども、それ以外に据え置き型のゲームとか、結構幅広いジャンルをやってますね。今は賞金でゲーム大会もあるんで…自分には出ていないですけど…</p> <p>[自分の自慢できることは] そうですね、多趣味なところがありまして、先程のゲームとピアノ、小学校は水泳、サッカーを習ったり。あとは陸上で走り幅飛びとは短距離で。文化系だけでなく幅広いジャンルで…なんといいですか活動しているのが自慢といえば自慢です。ピアノ教室に通っていた時期があって。得意な曲はショパンの幻想即興曲をピアノ教室を卒業するときに弾きまして、それを一番練習しましたね。ピアノは3歳のときからやっていますね。</p> <p>[今一番欲しいものは] うーん。こういっちゃなんですけどお金が欲しいです。お金がないと何もできないんで…あとは運動していないんで…健康診断にひっかかったので運動できるようなものですかね。体験型ゲームがあって自分にあった運動負荷をゲーム感覚でできるんです。その購入を考えていたんですけど、今 [ゲームの] 在庫がなくて。</p>
F	<p>[生活で楽しいことは] そうですね…普段からE君へ、勝てもしないゲームを挑んでボコボコにされるんですけども、E君と遊んでいることが一番楽しいので…乱闘ゲームが楽しいです。</p> <p>[趣味は] 友達と対戦ゲームをすることですね。</p> <p>[自分の自慢できることは] いやもう…Eくんゲームに負けすぎて、負け方には自信があります。普通に何回やられたら駄目ってルール作っているんですけど、全部負けちゃったり、逆転されたり。</p> <p>[今一番欲しいものは] 本当のことを言うと彼女がいるんです。最近、彼女が冷たいんで彼女からの優しさが欲しいです。</p>

(3) 日常生活における対人関係のこと (表4)

インタビューガイドで「今の生活で仲の良い人はだれですか」「周囲から助けられていることはなんですか」への回答とその回答内容の連続性を考慮し、「日常生活における対人関係のこと」として整理した。

と」として整理した。

仲の良い人は、共同生活援助（グループホーム）、自立訓練内の利用者としてS福祉サービス事業所の支援職員であった。利用者同士の交流および支援職員の関わりが伺えた。

表4 日常生活における対人関係のこと

対象者	内 容
A	<p>[今の生活で仲の良い人は] 親友とか友達ではないですが職員です。優しい人ばかり。〇〇事業所が管理しているグループホームに住んでいます。</p> <p>[周囲に助けられていることは何ですか] 家族とか近くにいないんで…免許ももっていないんで。冬はこちらの職員さんに仕事場へ送ってもらっています。[職場の所在地が] 〇〇なんで…ちょっと遠いんで…</p> <p>[職員以外で助けられている人はいますか] 会社の人とかです。体が小さいので、やりづらいところを手助けしてもらってます。[会社の] 人がやさしい…2月は忙しい…農家の始まりだから。</p>
B	<p>[今の生活で仲の良い人は] 仲の良い人いますね…みんなですね。[Aさんと同じく] グループホームに住んでいます。</p> <p>[周囲に助けられていることは何ですか] 特にないっすね。</p> <p>[職員以外で助けられている人はいますか] 職員はやさしい。</p>
C	<p>[今の生活で仲の良い人は] [Bさんと] 同じく全員です。みんな。[Bさんと同じく] グループホームに住んでいます。</p> <p>[周囲に助けられていることは何ですか] …吹雪のときの会社から家までの送り迎えです。夏はチャリで、冬は歩きです。チャリだと…15分くらいかな。冬は30分かかります。</p> <p>[一緒に勤務しているBさんと出勤時間は] バラバラです。</p> <p>[職員以外で助けられている人はいますか] 職員さんはやさしいです。</p>
D	<p>[今の生活で仲の良い人は] グループホームの人です。[仲の良い人はいるか] グループホームみんな仲がいいっすね…まだご飯を一緒に食べにいくとはまだはいかないんですけど…自分から輪のなかに入っていきようにしてます。夕食はグループホームで食べてますね。</p> <p>[Eさんの高校の先輩であることがインタビューでわかり] 僕は工業科で、コンクリート製品を作っていました。平板、ミンチ、U字とか作っていました。[Eさんに語りかけるように] 他学科体験もあったよね。</p> <p>[周囲に助けられていることは何ですか] 今の会社で社員として勤務しているんですけど、仕事終わりましたとかわからないこととか社員の方に助けられています。ウィンタースポーツクラブの所属チームで、僕は知的障害 [部門] なんですけど、他の方は身体障害の方が多くですね。その方と一緒にですね。みんな若いので、僕が最年長です。</p>

E	<p>[今の生活で仲の良い人は] そうですね…ここに学校の同級生と1年後輩がいるんですけど、高等養護でも寄宿舎で一緒でしたし…。</p> <p>[Dさんの語りかけに対して] 木工科で小物を作っていましたし、発注があればスマホ立て、積み木など釘を使わない安全な製品を作っていました。他学科体験もあり、自分にないことを見つけるみたいなきともありましたね。</p> <p>[周囲に助けられていることは何ですか] 職員が常にいるんですけど、今後のこととか生活でわからないことを教えてください。高校卒業して実家から離れて暮らしているんで、お金の管理を自分でしたことなかったんで、職員の方と一緒にしています。日用品関係で、あまり物を買うことがないので、どれくらいかかって…支出。どれくらいかかって、どれくらい貯金できてとかを聞いていますね。</p>
F	<p>[今の生活で仲の良い人は] EさんとEさんの同級生。全体的に仲も良いと思います。同級生もいたけど、ここを離れて別なところで生活しています。後輩は今一人います。高等養護学校では農業科だったので、畑を耕したり、花を作ったり、冬は除雪したり、縄をつくったりしました。縄はしめ縄です。冬は除雪を頑張っていました。</p> <p>[周囲に助けられていることは何ですか] 一番助けてくれるのはEさんですね。[F氏へ] 暇かい?とか悩み聞いてくれたり…ちょっとイライラした時、辛い時、話を聞いてくれます。今住んでいるところで問題が起こることがちょこちょこあり、助けてくれます。人間関係のことなんですけどね [Fさんは、現在の居住地内(自立訓練)で職員の留守中に電話番を任されることあるとのこと。その電話番をしている時に、きまってる別の利用者が騒々しくなり、注意すると揉めごとに発展してしまうことが悩みのようである]。</p>

(4) インタビューガイド以外で語られた内容のこと(表5)

インタビューガイドで「日常生活の中でもっと整備してほしいこと」への回答とその回答内容の連続性を考慮し、「インタビューガイド以外で語られたこと」として整理した。

本稿もしくは今後の研究活動への手がかりになる内容と判断し掲載した。内容としては、現

在グループホームで生活しているA氏、B氏、C氏から、一人暮らしへの思いが語られた。一人暮らしへの思いは抱いたが、グループホームでの食事提供や災害(2018年にZ市および近隣地域で地震が発生)時の心細さと励ましあった旨の語り聞かれた。それから、金銭管理の支援の必要性と障害者差別についてA氏、D氏から聞かれた。

表5 インタビューガイド以外で語られたこと

対象者	内 容
A	<p>[日常生活で整備してほしいことは] えー、特にないですね。十分。不便もない。</p> <p>[グループホームでの生活から一人暮らししたいと思いますか] 思わない。グループホームの食事は助かる。日曜日とかは職員さんと一緒にいたり、余ったもの食べている。お部屋は個室なので、自分で掃除する。3人と共同生活しています。</p> <p>[2018年に地震があり、そこで困ったことは] 携帯の充電が困りました。つむつむ(ゲーム)もできないし…共同生活している人と皆で大丈夫かと声かけあって…世話さんは通いなので。職員さんからも連絡くれた。暗いからすっごい怖かった…。</p> <p>[グループホームの外出時間は決まっていますか] 門限があって…それ破ったら職員さんに怒られるけど…会社の飲み会もあるけど、それは門限すぎたことない…酎ハイが好き。普段は飲まないですけど。レモン味が好き。</p> <p>[自分の障害についてどのように考えているか] 考えたことない。</p> <p>[差別うけたことは] 差別というか、いじめ…中学校[普通学級と特別支援学級を行き来していたとのこと]のときに…避けられて…給食の量を減らされたり。高校[特別支援学校]ではなくなっただけ…。</p> <p>[障害についての周囲の偏見について言いたいことは] 障害をもっている人はいない人だよ…全員が全員ではないと思うけど…</p>
B	<p>[日常生活で整備してほしいことは] 特にないっすね。</p> <p>[グループホームでの生活から一人暮らししたいと思いますか] 思いません。グループホームでは世話人さんがご飯を作ってくれて。お昼はお弁当をもたせてくれる。夜は作ってくれる。5人で共同生活しています。</p> <p>[2018年に地震があり、そこで困ったことは] 電気つなかつたことです。夜中ゆれたので、みんなで助け合った…。</p> <p>[グループホームの外出時間は決まっていますか] [Aさん、Cさんのあとに] 僕も酎ハイが好きです。</p> <p>[自分の障害についてどのように考えているか] 特にないっすね。</p> <p>[差別うけたことは] 特にないっすね。</p> <p>[障害についての周囲の偏見について言いたいことは] 特にないっすね。</p>

就労している発達障害者への生活支援の検討
 - 6名の発達障害者へのインタビューから -

C	<p>「日常生活で整備してほしいことは」特にないっすね。 [グループホームでの生活から一人暮らししたいと思いますか]前はそう思ったけど…やっていけるなと思ったけど、やっぱり大変だなと思って… [どんなところが大変ですか]家さがしたり、お金管理したり…料理もしなきゃいけないから。日曜日とお盆、お正月の食事は自分たちで持つ。4人で共同生活しています。 [2018年に地震があり、そこで困ったことは]電気です。つかなかったこと。夜中だったので、声かけあった。職員さんより会社のほうからの安否確認が早かったです。暗いから何をしていたかわからなかった。横になっても寝れないし。電池だけくう [消耗する] だけ…。 [グループホームの外出時間は決まっていますか]グループホームに門限があつて。門限までに帰ってこれれば、いつ外出してもよい。会社の飲み会もありますよ。ビール好きです。6杯は飲みますよ。今お酒値上がりして、缶が高いので、ノンアルコールにしています。 [自分の障害についてどのように考えているか]特にないっすね。 [差別うけたことあるか]特にないっすね。 [障害についての周囲の偏見について言いたいことは]療育手帳で割引されるよ…。</p>
D	<p>「日常生活で整備してほしいことは」無いっすね…あつ、でも一個あります。競技場の管理上で思うような練習ができないことですね…。</p>
E	<p>「日常生活で整備してほしいことは」ここ数年で障害者に対して、支援の幅が広がっていることは事実なんですけど、一般的に差別があることが気になる。つい最近ですけど、障害者週間ポスターが街なかではられていて、支援しましょうという取り組みなんですけど、そういう取り組みの時点で、健常者と障害者と差別している状況ですので、健常者と障害者が肩を並べるような社会になってほしいと思います。[DさんもEさんの障害者週間の話題にそのとおりですねと頷く]</p>
F	<p>「日常生活で整備してほしいことは」整備してほしいところの今生活しているところの老朽化した部分を何とかしてほしい。扉とか…利用者さんが [この聞き取りでもこの部屋に] 入ってくるんで。</p>

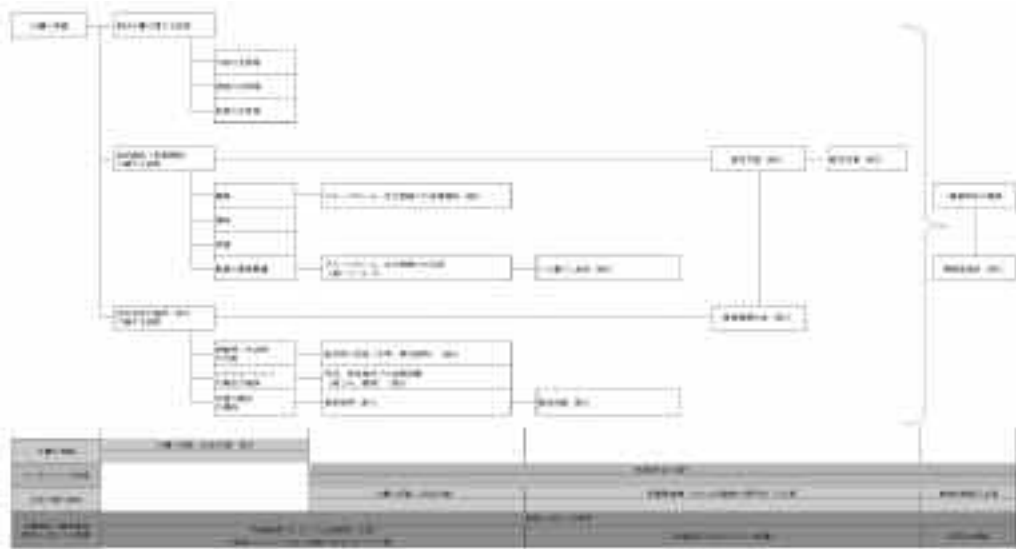


図1 就労している発達障害者への生活支援の検討

注3) の山縣文治・柏女靈峰 (2017) :『社会福祉用語辞典 (第9版)』ミネルヴァ書房, p72. ケアワーク (care work) 笠原幸子執筆の図ケアワークの体系を一部改変し示しうえて、対象者6名の語りの結果 (表2～表5) と介護福祉士養成課程教育に含むべき事項を加え整理した。

V. 考察

6名の回答 (表2～表5) から、笠原 (2017)³⁾ が示す枠組みと介護福祉士養成課程で想定される教育に含むべき事項と照らし合わせ整理した

ものが図1である。この図から、就労している発達障害者への生活支援の検討を行う。

(1) 生活援助や社会生活の維持に関する生活支援

笠原(2017)は、身辺介護に関する技術、生活援助(家事援助)に関する技術、社会生活の維持・拡大に関する技術で分類している。そこに、6名から得た回答を加えた。あくまでも対象者6名の回答に留まるが、直接身体に触れる技術というよりは、生活援助や社会生活の維持に着眼し、生活支援を検討していく必要性がある。

例えば、社会生活の維持・拡大に関する技術では、「移動時・外出時の介助」というように介護の実践(生活支援)項目が派生している。「移動時・外出時の介助」から、「就労時の送迎(冬季・悪天候時)(表4)」と直線で繋がっている。これは介護の実践(生活支援)項目と6名から得た回答と結びついている。

また「最善の環境整備」の項目では「グループホーム、自立訓練での生活(表1・2・3・4)」からさらに「一人暮らし生活(表5)」と結びついている。これは、筆者が6名の語りの文脈をとらえたなかで当該箇所が適切と判断し結びつけた。

介護福祉士として就労している発達障害者への生活支援をする場合、こうした項目に着眼し検討することが必要といえよう。もう一つ、生活支援の検討にあたっては、ストレングス視点が重要である。人は潜在的に「強み・強さ」を持っているが、様々な障壁によりそれを発揮することができない場合がある。A氏、D氏は、筆者の調査研究に協力してくれた経緯があり、そのインタビューで小学校、中学校で壮絶ないじめに遭ってきた。A氏は今回のインタビューでそこに触れる一幕もあったが、二人ともに現在はそれを感じさせないような語りであった。

A氏は就労先で同僚にサポートを受け、「[周囲の人は]やさしい」「不便なことはないです」と話した。さらに就労で得た収入で趣味を満喫している。D氏もウィンタースポーツの選手であり、競技を継続できる企業に就労することができた。D氏曰く「何年後の競技大会に向けて復活したい」と語った。

様々な障壁がどこに存在しているのか、その解決の一助となる本人自身の「強さ」を活かす支援の検討が必要である。

(2) 介護福祉士養成課程で想定される教育に含むべき事項

「生活支援技術」をどのように行うかには、関連科目である「障害の理解」が重要である。「障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援」が教育に含むべき事項として示され、かつ本稿の対象者である発達障害についても「発達障害が生活に及ぼす影響」「発達障害のある人の生活理解と支援」が想定される教育内容例として挙げられている。

生活支援の検討にあたっては、障害特性と障害者福祉の変遷に関する理解が前提となる。発達障害の特性は、通常低年齢において発現するとされ、それゆえに幼児期・児童期を中心とした療育・教育現場での障害理解および支援技術の向上に焦点が当てられる傾向にあった。発達障害者支援法施行後、青年期・成人期の生活支援および就労支援についても焦点があてられるようになり、発達障害者支援センターをはじめ、就労支援事業所・企業の連携した実践が先行研究として報告されている。

生活支援技術の実施には「介護過程」に沿った展開が求められ、とりわけアセスメント部分における分析では、収集した情報を障害の理解の知識を織り交ぜながら生活ニーズを言語化・文章化する。対象者6名は、他者との相互交渉、言語コミュニケーションの障害特性と周囲との人間関係の狭間で生活している。A氏やE氏のように周囲からの差別的な取り扱いについて言及していたが、障害特性だけではなく周囲との相互作用を捉えた支援を検討することが求められる。

(3) 多職種連携

図1の右側に記載している「就労支援(表2)」、「障害基礎年金(表2)」、「就労定着(表2)」の囲みは「生活援助(家事援助)に関する技術」「社会生活の維持・拡大に関する技術」と点線で繋げている。この点線について、筆者は関連(連携)するものとして整理した。

対象者の語りから、この点線の範囲は相談援助の専門職（例 社会福祉士または精神保健福祉士、相談支援専門員）をはじめ、職場適応援助者（ジョブコーチ）、生活支援員らと連携する必要があることで円滑にすすむと考える。介護福祉士養成課程には、社会保障関連の履修科目（養成校により科目名称は異なる）が設定されているも、こうした社会資源をコーディネートする専門職と連携するで、対象者にとって支援の選択肢が広がるのが可能となる。

なお、介護福祉士は対象者の直接支援を行うことから、対象者との関わりが時間的にも回数的にも多い。そのなかで対象者の相談を受けることもあることから、社会保障に関する理解、各専門職の特徴、業務範囲を理解しておくことは言うまでもない。

（4）生活歴の理解

6名の対象者の生活歴を把握しておくことが重要である。インタビューガイドで「生活で不便なこと」「今の仕事」について質問し、「不便なことはない」「今の仕事はうまく行っている」や「本当は〇〇〇の仕事がしたい」といった回答が聞かれた。真っ向から否定するという意ではなく、こうした協力的に回答にも様々な背景があることを理解しておく必要があると感じている。

それというのも、A氏、D氏は、過去に筆者の調査研究に協力してくれた経緯がある。そこで生活歴について聞き取りした。二人ともいわゆる普通学級と特殊学級（特別支援学級）を行き来していた。発達障害の特性が故に、普通学級では幼少期にいじめに遭っており、A氏もD氏も中学校卒業後、地元から飛び出すように、遠方の高等養護学校へ入学し寄宿舎生活を送っていた。

高等養護学校（特別支援学校）では、少人数制で障害特性に応じた個別的教育を受けることができる。将来円滑な就職のためカリキュラムに現場（職場）実習も設定されている。「不便なことはない」という語りも、こうした教育の積み上げと就労支援に携わる福祉サービス事業所の実践の連携が為せる結果である。

他方でA氏の「本当は…」といった背景には、当時通っていた高等養護学校と現場（職場）実習を提携している企業は第一次産業が多かったこと。その受入も、A氏の希望よりかは、受けてくれる企業に振り分けられたという印象を持っていることも過去に語っていたのである。E氏のように「自ら選んで入った職場ではないので…」という語りにも何かしら理由がある。就労への適性、マッチングといった検証について、ここで論じることはできないが、生活歴の理解はより良い支援につながる入口である。

インタビューで「今の生活で仲の良い人」について聞いたところ、共同生活援助（グループホーム）や自立訓練で生活している利用者とS福祉サービス事業所職員であった。それ以外の友人・知人の名前は挙がらなかった。A氏、B氏、C氏が語ってくれた「職場での飲み会」と交友関係について新たな聞き取りをすることはできなかった。ともあれ、6名が語った他利用者や職員は「ちょこちょこ色々あるんですよ」と言いつつも、人間関係と今の生活を維持するうえで重要な存在であると言えよう。

介護福祉士は対象者と直接関わる機会が多い。より良い生活支援の実践のためにコミュニケーション技術を駆使して、対象者の生活歴等の情報収集をしていく。生活支援の検討には、こうしたコミュニケーション技術の習得と研鑽が必要である。

以上のように、生活支援の技術の習得のみならず、図1に示す俯瞰的な検討が必要であることを、対象者6名から学ばせてもらった。

VI. 本研究の限界

本研究の限界として、インタビュー人数の少なさと性差である。6名の対象者は、インタビュー対応可能という実現可能性を重視したこともあり、男性5名、女性1名という性差となった。

しかしながら、発達障害者の語りは大変貴重であり、体験したことやその環境で感じていることをご自身の立場から述べてもらうことで、語りのリアリティが増した。就労や日常生活の

苦労は様々あるも、障害特性を理解しつつ努力を積み重ねていること。自分自身の強みや楽しみを持ち生活を送っていることも理解でき、学生の学びも深化したと考えている。

今後も、発達障害者へのインタビュー対象者を継続し、就労や日常生活の支援の一助になる取り組みをしていきたい。

謝辞

本調査について趣旨を理解しご協力いただきましたS福祉サービス事業所の皆様と、お忙しいところインタビュー調査にご協力いただいたA氏、B氏、C氏、D氏、E氏、F氏に感謝申し上げます。

注

- 1) 社会福祉士及び介護福祉士法第2条において、「介護福祉士」とは、第42条第1項の登録を受け、介護福祉士の名称を用いて専門的知識及び技術をもって、身体上又は精神上の障害があることにより日常生活を営むのに支障がある者につき心身の状況に応じた介護を行い、並びにその者及びその介護者に対して介護に関する指導を行うことを業とする者をいうと記載されている。
- 2) 本稿では、ICF (International Classification of Functioning, Disability and Health の略である。)の枠組みを指している。ICFは、人間の生活機能と障害の分類方法として2001年に世界保健機関 (World Health Organization: WHO) 総会において採択された。個人の「健康状態 (変調または病気)」「心身機能・身体構造」「活動」「参加」「環境因子」「個人因子」の要素間の相互作用を捉える枠組みである。筆者の所属校では、介護過程、生活支援技術、ゼミナール等の授業において、このICFを用いて、福祉サービス利用者を理解するよう指導している。
- 3) 山縣文治・柏女靈峰 (2017):『社会福祉用語辞典 (第9版)』ミネルヴァ書房、p72. ケアワーク (care work)
- 笠原幸子執筆
- 4) 木原 亜紀生ほか (2018):職業リハビリテーション場面における自己理解を促進するための支援に関する研究、独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構障害者職業総合センター、調査研究報告書 No.140.
- 5) 木原 亜紀生ほか (2018):障害者雇用の質的改善に向けた基礎的研究、独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構障害者職業総合センター、資料シリーズ No.101.
- 6) 望月 葉子ほか (2011):発達障害者の企業における就労・定着支援の現状と課題に関する基礎的研究、独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構障害者職業総合センター、調査研究報告書 No.101.
- 7) 高岡 佑壮 (2012):高機能広汎性発達障害を持つ人々の就労問題に関する質的研究 : 仕事を円滑に進める方法に着目して. 臨床心理学. 第12巻第4号、527-541頁.
- 8) 内木場 雅子ほか (2015):発達障害者を中心とした職場における配慮と支援に関する資料、独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構障害者職業総合センター、資料シリーズ No.88.
- 9) 熊谷 晋一郎 (2016):自閉スペクトラム症の研究において地域性・時代性に依存する disability と個体側の impairment を区別することの重要性. 発達心理学研究、第27巻、第4号、322-334頁.
- 10) 熊谷 晋一郎 (2017):『自閉スペクトラム症の社会モデル的な支援に向けた情報保障のデザイン』当事者研究の視点から. 保健医療科学、第66号、第5号、532-544
- 11) 山縣文治・柏女靈峰 (2017):『社会福祉用語辞典 (第9版)』ミネルヴァ書房、pp.223-224 ストレングス (strength) 視点 長崎和則執筆
- 12) 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会 (2019)『介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業 報告書-介護福祉士養成課程 新カリキュラム教育方法の手引』 p.47によると「生

活支援技術」の教育内容のねらいは、尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とある。「生活支援技術」の関連科目である「障害の理解」について、同報告書 p.69 には「障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援」が教育に含むべき事項として示され、かつ本稿の対象者である発達障害についても「発達障害が生活に及ぼす影響」「発達障害のある人の生活理解と支援」が想定される教育内容例として挙げられている。

- 13) 拙稿「広汎性発達障害を持つ方の就労円滑化に関する方策の検討ー就労している広汎性発達障害を持つ方の語りを手がかりにー」旭川大学短期大学部紀要第 49 号(単著) 2019 年 3 月
- 14) 拙稿「発達障害を持つ方の就労時の現状と課題」旭川大学地域研究所年報第 40 号(単著) 2019 年 3 月
- 15) 2005 年 4 月施行された発達障害者支援法において、発達障害を「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるもの」と定義している。この法律では国及び地方公共団体の責務を明らかにし、早期発見、早期支援、教育支援、就労支援、地域生活支援、権利擁護、家族支援、発達障害者支援センターの設置等を規定している。2011 年 8 月施行の障害者基本法の一部を改正する法律では、障害の範囲に発達障害が含まれることが、障害者基本法第 2 条 1 項に明文化された。かつて福祉サービスの対象となることが難しく、いわゆる制度の谷間におかれていた発達障害者に対し支援の根拠が位置付けられた。

発達障害の医学的診断基準として、世界保健機関 (WHO) の国際疾病分類第 10 版 (ICD-10) アメリカ精神医学会の診断と統

計の手引き [DSM- IV-TR、2013 (平成 25) 年 5 月から DSM- V] が用いられている。なお DSM- V では「自閉症スペクトラム症／自閉症スペクトラム障害」が新基準となった。従来の「広汎性発達障害」で診断された方と新基準で診断された方が混在することとなる。

- 16) 桜井 厚・小林 多寿子 (2005) : 『ライフストーリー・インタビューー質的研究入門ー』せりか書房
- 17) 佐藤 郁哉 (2008) : 『質的データ分析法ー原理・方法・実践ー』新曜社

